

## 論文審査の結果の要旨および担当者

報告番号	※	第	号
------	---	---	---

氏 名

太 田 智 之

論 文 題 目

ネパールの丘陵地域における農村世帯の金融行動～生計戦略は農村世帯の金融行動にどのように影響を与えているのか～  
(Financial Behavior of Rural Households in the Hill Region of Nepal – How does a livelihood strategy affect financial behavior of rural households?)

論文審査担当者

主査

	名古屋大学	教授	伊東早苗
委員	名古屋大学	教授	東村岳史
委員	名古屋大学	准教授	新海尚子

# 論文審査の結果の要旨

## 1. 論文の概要と構成

本研究はネパールの丘陵地帯における生計戦略が農村世帯の金融行動に与える影響を論じ、ネパールにおける農村金融のあり方を探ることを目的とする。南アジアはマイクロファイナンスの活動が活発だと一般的には考えられているが、山岳地帯や丘陵地帯を有し、カースト差別が残るネパール農村地帯では、貧困層による金融アクセスの不備が長年の政策課題であった。一方で、1990年代以降の市場経済化の進展はネパール農村地帯に農業外収入をもたらし、近年、農村世帯の生計戦略は劇的に変化しているといわれる。それにともない、貯蓄や融資などの金融サービスに対する住民のニーズは高まり、農村世帯の金融行動に大きな影響を与えている。著者は青年海外協力隊（ネパール、経済・市場調査）および在ネパール日本大使館（専門調査員）での業務経験を通じて培ったネパールの地方行政機関や農村金融組織との豊富なネットワークを生かし、2013～2014年に約6か月の現地語による農村調査を実施した。調査地は首都カトマンズ郊外のラリトプル郡バディケル村で、全戸調査（663世帯）と参与観察を基本とする。調査を通じ、農村世帯の金融行動を、カースト毎の協同組合活動における社会的結束の強弱と、農業外定期収入への依存度を軸にして、実証的に分析した。その結果、市場経済化の進展により変貌するネパール農村世帯の生計戦略は、カースト内結束と「ジャグリ（農業外定期雇用）」の有無という二つの軸が組み合わさることにより、金融行動に影響を与えているというものである。そして、カースト別に設立された協同組合活動を通じた社会的結束が強く、同時に、協同組合から受けた融資を家畜飼育や竹細工等の生産活動に投資せざるを得ない低カーストの農村世帯が、融資に対する最も高い返済行動をとると議論する。また、ジャグリ（農業外定期雇用）を有し、カースト内の社会的結束に生計を左右されることのない高カースト世帯は、協働組合からの融資に対する返済率が低いことを指摘する。

博士論文は全10章からなる。第1章は研究課題およびその意義を説明し、論文全体の構成を説明する。第2章は、研究対象国であるネパールの概要を示し、1990年代以降の市場経済化の進展と農村世帯の生計戦略の変化を、カースト別に概観する。第3章は、ネパールの農村金融に関わる概要と政策の変遷に焦点をあてながら、先行研究が十分に明らかにしてこなかった点を抽出し、本研究の課題設定につなげる。

第4章から第6章までは、現地調査の概要と基礎データの分析を示す章である。第4章は、調査設計とデータの収集および分析の方法を説明する。第5章は、調査村における農村世帯の生計を、高カースト（バフン、チェットリ）と低カースト（ジャナジャーティ、ダリッド）に分けて、土地保有、物的資産、教育、社会的扶助の側面から分析する。続く第6章は、調査村における農村世帯の金融行動を概観し、両カースト集団とも、その8割が、協同組合や貯蓄グループなどの在来金融機関から金融サービスにアクセスしている状況を明らかにする。

第7章から第9章までは、前2章で説明した調査村の基本的状況を踏まえ、本論文の中心

## 論文審査の結果の要旨

的課題についての分析を加える章である。第7章は、カースト内結束が農村世帯の金融行動に与える影響を分析する。その結果、低カーストが自分たちで設立した協同組合から相互に融資を得て、カースト内の強い社会的結束を背景に高い返済率を維持する一方で、生計戦略が村内の共同作業に依存する割合が低い高カーストは、協同組合の柔軟な返済ルールを「悪用」する傾向があると議論する。続く第8章は、市場経済化の進展とともに増加している「ジャグリ（農業外定期雇用）」に依存する世帯の金融行動を分析する。その結果、両カーストともにジャグリ世帯は融資に対する返済が遅延する傾向にある一方で、融資の投資先である生産活動をもつ非ジャグリ世帯は、継続的な融資へのニーズを背景に、高い返済率を維持する傾向があると議論する。

第9章と第10章は、前2章の分析結果を受け、本論文で設定した研究課題を考察し、結論を導き出す章である。カースト内結束という社会的要因と、市場経済化の進展を反映するジャグリ世帯の増加という経済的要因からなる二つの軸が、農村世帯の金融行動にそれぞれ影響を与え、同じカーストであってもジャグリの有無により、また同じジャグリ世帯であってもカーストの高低により、金融行動が異なると議論する。さらに、今後の農村金融の発展に向けて、こうした二つの軸による農村世帯の金融行動に対応した正規金融機関と在来金融組織の組み合わせ方を提示する。

本研究の第7章と第8章の成果は、1本の査読付き学術論文として出版されている。

### 2. 評価

本論文はネパールにおける農村金融を対象とする研究として、以下の点が評価される。

1) 1990年代以降、市場経済化が進み、農村世帯の生計戦略が変化するネパールで、農村世帯の金融行動がどのような変化を見せているかをオーソドックスな農村研究の手法を用いて検証し、借り手の側にたって描き出した。金融サービスの拡大を貸し手の側の技術的問題に焦点をあてて論ずる先行研究が多い中で、著者はネパール農村における長期の活動経験を背景に、農村世帯の金融行動を農村社会を構成する社会的かつ経済的な文脈の中に位置づけて分析することに成功し、それによって南アジアの農村金融研究に学術的な貢献を果たした。

2) バングラデシュやインドなど、近隣の南アジア諸国では歴史的に協同組合運動は必ずしも成功せず、新たなマイクロファイナンス機関の設立が増加した。その中で、伝統的に協同組合運動が盛んなネパールは、協同組合を中心とする在来金融組織を通じたマイクロファイナンスの発展という独自の特徴を有している。本研究はネパール農村の低カースト世帯が自ら協同組合の設立に関わり、協同組合を持続的な金融サービスの拠点としていることを明らかにしており、この事実は、1990年代以降急激な勢いで産業として発達し、様々なイノベーション

## 論文審査の結果の要旨

ョンを生んできた世界のマイクロファイナンス業界にあって、興味深い政策的示唆を与えるものである。

同時に、本論文は以下のような不十分な点も含んでいる。

- 1) 本論文はネパールにおける農村金融のあり方を議論する一方で、農村金融の利用が当該農村社会の貧困削減に資するかどうかの影響評価に踏み込むものではない。金融サービスへのアクセスの程度やサービスの特徴について論じる一方で、それらの金融サービスの利用が、農村社会内の階層構造に何らかの影響を与えているのかどうかは分析されていない。
- 2) 上述の点と関連するが、農村社会の社会構造や世帯ごとの経済活動について詳細な分析がある一方で、農村社会内および農村世帯内の権力関係や政治的力学を読み解く視点が弱い。

しかし、これらの点は、論文著者が今後の農村金融研究を深化させる上で取り組むべき将来の課題であり、本論文の価値や独自性を損ねるものではない。本論文は、博士論文としての水準に足るオリジナリティと学術的価値を十分に有していると判断する。

### 3. 判定

以上のような審査の結果を基に、本論文は博士（国際開発学）の学位に値するものと判定する。